



三つ子の魂、百まで

名古屋市情報教育研究会会長
中島正次（篠原小）

本研究会の名称が名古屋市情報教育研究会となって、三年目となりました。名称や研究団体の変遷を紐解くと、昭和38年の10月に全国学校視聴覚教育連盟名古屋大会が開催されたことから、昭和39年度にそれまでの「名古屋市映画放送教育研究会」が改称され「名古屋市視聴覚教育研究会」の名称で視聴覚教育の組織的な団体研究会となりました。

昭和46年度には、団体研究だけでなく個人的な研究発表の場を広げ「名古屋視聴覚同好会」を発足させ、放送教育、教育工学、映像教育といった幅広い視聴覚教育の研究や実践を深めるようになりました。

昭和60年代に入り、学習用コンピュータの試行導入が始まり、数年で全市の小・中・高等・特別支援学校にコンピュータ室ができ、本格的な情報教育が展開されました。学習用コンピュータ導入と共に、校務用コンピュータが各学校に導入され、成績処理や情報管理に活用されるようになりました。

平成8年には、「名古屋市視聴覚教育研究会」と「名古屋視聴覚同好会」を融合させ、「名古屋市視聴覚教育研究会」と名称を統一しました。

さらに、近年の情報化の推進状況や、名古屋市視聴覚教育センターが名古屋市教育センター「情報教育部」と名称変更したことなどから、平成17年度に名称変更の手続きを進め、平成18年度より「名古屋市情報教育研究会」となりました。

そんな経緯から、本研究会の名称「名情研（名古屋市情報教育研究会）」となって、三年目となるわけです。平成19年度から、研究会のテーマを「見つける楽しさ、わかる喜び、そしてあふれる感動」と設定しました。それまでの「
「
」をはぐくむ情報教育のあり方を追究しよう」という主テーマに、『情報教育』という文言を使わなくしました。

むしろ、楽しさ、喜び、感動といった子どもの感性を大切にした授業を追求する視聴覚教育時代に使ってきた文言を前面にして、研究や実践に、また、情報教育環境の充実に取り組もうとしています。

「三つ子の魂、百まで」という諺があります。これまでの約半世紀で培った「名古屋市視聴覚教育研究会」を継承し、「名古屋市情報教育研究会」と名称を変えましたが、この三年間の研究や実践の成果が、今後百年の情報教育時代の基盤を創るのではないのでしょうか。

今後とも、本研究会へのご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

「見つける楽しさ, わかる喜び, そしてあふれる感動」 確かな学力と豊かな感性をはぐくむ情報教育

研究副部長 小島敬一(大生小)

一人ひとりを, 学習の主人公に。

本研究会では, カリキュラム研究部と実践研究部が中心となり, 子どもの感性に訴えかけながら“確かな学力”を育むことを目指し, 実践研究を進めます。

本年度は, 子どもたちが主体的に活動するために必要な手立てや支援のあり方を追究していきたいと考えています。合い言葉は「一人ひとりを, 学習の主人公に。」です。

つかむ, あつめる, まとめる, つたえる, ふりかえる, という学習ステップを意識した単元構成をし, 子どもたちが自ら課題をもち(見つける楽しさ), 解決していくことで学ぶ喜び(わかる喜び)や達成感(あふれる感動)を味わうことができる実践研究を行います。カリキュラム研究部が昨年度計画したものを中心に, 実践研究部が授業実践を進める予定です。



ICTの活用

教員のICT活用指導力が問われる時代になりました。実践研究部が中心となり, 授業のどの場面で, ICTを活用した指導をどのようにすれば, より効果的になるのか? について実践研究を進めます。



プロジェクタで資料を大きく映し出している場面

情報モラル指導への対応

情報手段の発達によって発生している様々な社会問題に対応するため, 情報モラル向上のための指導法についても実践研究を進めます。

生活指導的な側面だけでなく, 道徳指導的な側面を育てる場面を設定します。そして, 情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方を身につける子どもを育てる手法について研究を深めます。



各研究部の活動の様子や情報教育に関する新しい情報は, 名古屋市情報教育研究会のホームページでも発信しています。一度, ご覧いただければ幸いです。

アドレスは, <http://www.meijoken.com>

検索サイトで次のようなキーワードで検索してもご覧いただけます

名情研

検索